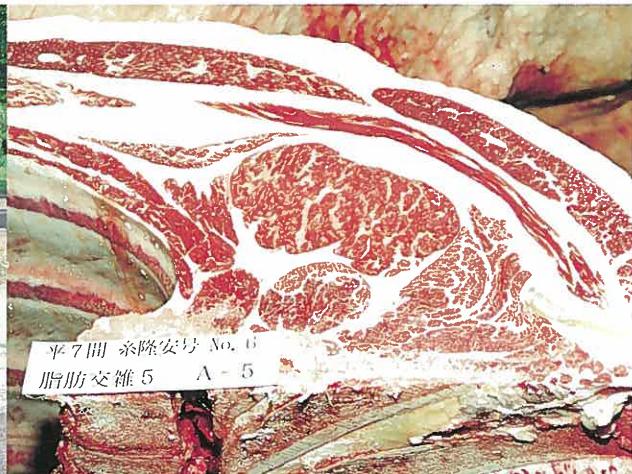


世界に羽ばたく宮崎牛

1997年3月号

No.18



「糸隆安」号 間接検定全国トップ級の脂肪交雑3. 2

3月号目次

畜産情勢（肥育牛の収益動向）	1
特別レポート（技術情報）	4
今月の飼育管理ポイント	5
トピックス	6
肉用牛産肉能力検定情報	8
おたずねします	9
一般放談	10

参考資料	11
需要動向	
（肉用子牛価格の推移）	11
（品種別規格別牛枝肉卸売価格の推移）	11
今後の行事計画	12
宮崎県良質堆きゅう肥生産流通促進協議会より	13

畜産情勢

肥育牛の収益動向

肉用牛品質向上対策事業で得られた結果から、肥育牛の出荷時期別の収益動向をまとめてみました。肥育経営はもと牛導入価格の変動と枝肉相場の変動のほか、飼育等資材の価格の動きによって収益性(もうけ)が大きく左右されます。ここでは、収益性を「1頭1日当たり増価額」でみることにします。

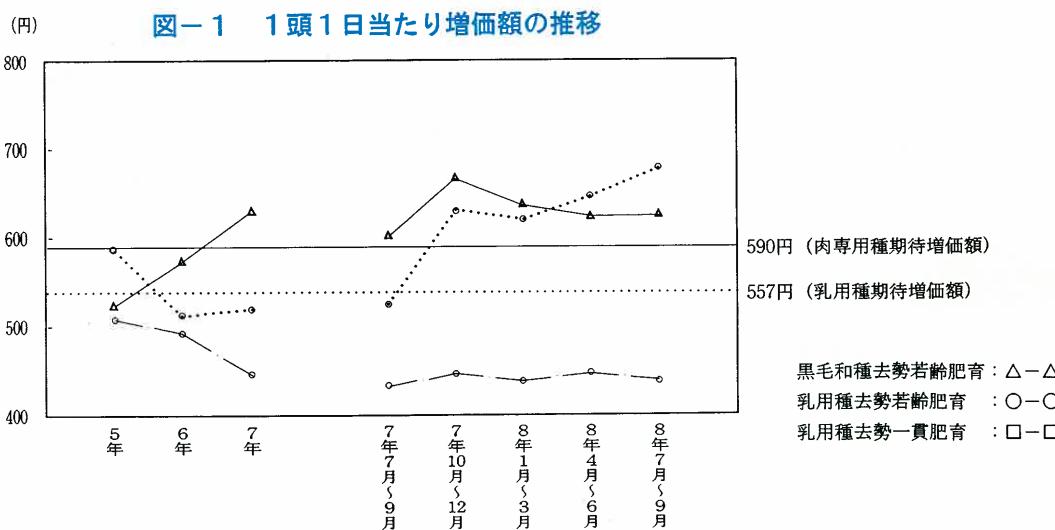
(注) 1頭1日当たり増価額 = (肥育牛の出荷価格 - もと牛導入価格) ÷ 育成日数

1. 概観

1頭1日当たり増価額の品種肥育タイプ別の動きを図-1に示しました。

最近の収益性の動向はタイプにより異なっています。

それぞれのタイプの1頭1日当たり増価額を1頭1日当たり期待増価額(考え方については「参考」参照)と比較すると、四半期平均値では黒毛和種去勢若齢肥育が平成7年第3四半期(7月~9月)から8年第3四半期まで継続して期待増価額を上回っています。乳用種については去勢若齢肥育が7年第4四半期(10月~12月)から8年第3四半期まで上回っていますが、一貫肥育については7年第3四半期から8年第3四半期まで継続して下回っています。これら品種肥育タイプ別の平成8年第3四半期の動きについて、さらに詳しくみることにします。



2. 黒毛和種去勢若齢肥育

平成8年7~9月に出荷された肥育牛は、平成6年10~12月頃に導入されたものが中心となります(肥育期間21カ月より)。この時期の出荷牛を7年7~9月出荷牛と比較すると、導入価格は379千円と5千円低い水準でした。出荷体重は689kgと10kg大きくなっています。一方、肥育日数は638日と11日程度長くなっていますが、導入価格が低い水準だったことと出荷価格が高い水準だったため、「1頭1日当たり増価額」は631円と7年7~9月出荷牛よりも高い水準になっています。

黒毛和種去勢若齢肥育

出荷時期	5年	6年	7年	7年7~9月	10~12月	8年1~3月	4~6月	7~9月
集計頭数	14,003	14,816	13,563	3,300	4,053	2,297	1,751	1,242
導入月別	9.2	9.3	9.4	9.5	9.4	9.5	9.5	9.3
体格(千円)	284	289	288	287	286	288	285	282
価格(千円)	513	445	381	384	387	355	359	379
出荷月別	29.9	29.9	30.0	30.1	30.1	30.3	30.3	30.3
体格(千円)	680	679	680	679	675	677	681	689
価格(千円)	851	800	772	762	803	762	757	782
荷物	1kg当たり生体価格(円)	1,255	1,178	1,138	1,123	1,191	1,126	1,135
	1kg当たり枝肉価格(円)	1,904	1,785	1,704	1,681	1,759	1,706	1,753
肥育日数	628	625	626	627	629	632	633	638
DG	0.638	0.634	0.634	0.634	0.626	0.622	0.633	0.645
1頭1日当たり増価額(円)	544	576	632	608	667	647	629	631

社団法人 中央畜産会

肉牛改善だより 第22号より

参考: 「1頭1日当たり増価額」の目安

収益性の変化を「1頭1日当たり増価額」でみてきましたが、これと「所得」とはどのような関係になるのかを、「平成6年畜産物生産費調査報告(農林水産省統計情報部)」(平成8年5月)の数値を基準として試算しました。

経営によっては、投入する飼料費や労働量が異なり、また、事故率やDGなど肥育技術も異なることから、試算数値は全ての経営に適用するものではありません。利用に当たっては、機械的に数値を適用しないよう留意してください。

(1) 前提

費用の中には「支払地代」と「支払利子」は含んでいません。ここでは、もと牛の預託はなく全頭自己資本で導入し、土地利用も自己有地利用という経営を前提としています。また、期待所得の計算では労働力1人当たり年間所得を400万円とし、それを平均的な労働効率(出荷肥育牛1頭生産するのに要する時間は、肉専用種72.3時間、乳用種27.1時間)で経営を行ったとすれば、労働力1人当たりの年間出荷頭数は、肉専用種30頭、乳用種81頭となります。

このような経営を前提として試算しました。

項目	肉専用種	乳用種	算出基礎、計算方法
肥育期間①	20.2カ月	15.2カ月	生産費調査より
出荷1頭当たり労働時間②	72.3時間	27.1時間	生産費調査より
1人当たり出荷頭数③	30頭	81頭	2,200時間÷②
400万円を実現する			
出荷牛1頭当たり期待所得④	133,333円	49,383円	400万円÷③
1頭1日当たり期待所得⑤	217円	107円	④÷①
1次生産費⑥	804,146円	375,766円	生産費調査より
もと畜費⑦	478,987円	128,459円	生産費調査より
家族労働費⑧	95,930円	39,624円	生産費調査より
もと畜費、労働費を除く費用⑨	229,229円	207,683円	⑥-⑦-⑧
1頭1日当たり費用⑩	373円	450円	⑨÷①
1頭1日当たり期待増価額	590円	557円	⑤+⑩
1頭1日当たり限界増価額	373円	450円	⑩

(2) 試算

年間所得1人当たり400万円程度を実現するためには、肉専用種では590円、乳用種では557円程度の1頭1日当たり増価額(ここでは期待増価額と呼ぶことにします。)が必要となります。一方、所得0円(限界増価額と呼ぶことにします)となるのは、肉専用種では373円、乳用種では450円です。

● 特別レポート (技術情報)

肉用牛肥育とビタミンA

導入子牛における血中ビタミンA濃度

肥育農家の夢「それは・・・サシの入る牛」、脂肪交雑は血統、飼料中のエネルギー量、肥育管理などの諸要因に影響される事が報告されている。しかしながら脂肪交雑の形成機序については不明な点が多い。

「ビタミンA値をコントロールして肉質を向上させる」という考え方が肥育農家の間で広まり、意識的に牛をビタミンA欠乏にさせ結果として筋肉水腫（ズル肉）となってしまい大損害を受けたという話も聞く。

ビタミンAは生体の発育、上皮組織の維持、視覚機能や生理に欠く事のできない栄養素であり、欠乏すると食欲不振、盲目、運動失調などの症状が現れる。ビタミンA欠乏については、従来肥育期間に発生するものと思われていたが、現在ではセリ出場の子牛まで発生している。今回、県家畜改良事業団の導入した子牛においても、血中ビタミンA濃度に差異が認められたのでこれを紹介致します。

今回の肥育素牛については、平成7年6月、各郡より生後月齢7~9ヶ月令を70頭導入し内53頭について血中ビタミンA濃度の測定をおこなった。結果は表-1の通りで血中ビタミンA濃度の最高値は、247IU/dl最低値は、35IU/dlであり平均130IU/dlであった。また、発育に影響があるといわれている80IU/dlを下回るものが全体の約1割を占めていた。特に、60IU/dl以下については、導入時での呼吸器病による発熱、下痢が見られ重症においては肺炎を併発し現在も治療を必要し、増体は期待できないものである。これらの原因については、生産農家での飼育管理（エサの種類）の違いによるもので、表-2に示す通り県家畜改良事業団でも飼料分析をおこなった結果、飼料中のビタミンA含量がエサの種類、季節で差があり同じ粗飼料においても入庫後日数をおく事によりビタミンAの減少が見られた。また、兵庫県立中央農業技術センターの岡氏らの分析においても、図-1に示される通りロッドによって差が見られており、この為これらの飼料を給与する事によって子牛の血中ビタミンA濃度にバラツキが見られたと考えられる。これらの肥育素牛を同じ肥育マニュアルでスタートする事は難しく、肥育開始に際しては血中ビタミンA濃度を同レベルでスタートする事が一番望ましく、また外観からの血中ビタミンA濃度を予測する事は困難である。子牛において健康な発育をさせる為には、日本飼料標準に示される通り、ビタミンAの必要量は一日体重1kg当り43IUとあり体重300kgの子牛に必要なビタミンAは一日12,900IUで充分なビタミンA給与が必要と考えられる。

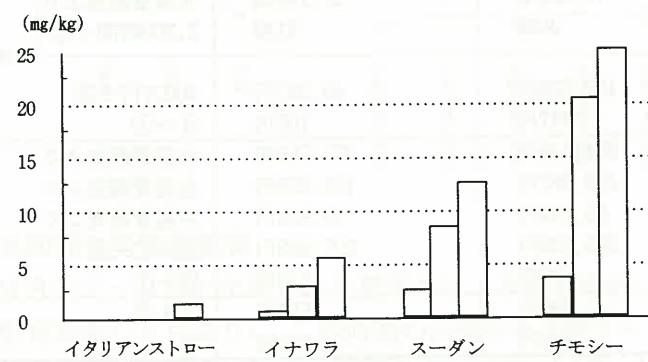


図1 乾草中のβ-カロチン量

兵庫県中央農業技術センター

岡氏の文献引用

表-1 血中ビタミンA濃度 (IU/dl)

	去勢	雌
40以下		1
40 ~ 70	3	
70 ~ 100	9	
100 ~ 150	19	9
150以上	5	7
頭数	36	17

飼料分析結果 (ビタミンA) (IU/kg) 表-2

品種	5.12. 1	6. 2.23	6. 5.24	6. 8.22	6.11.22	7. 6.16	7.10.18
オーツヘイ A	400						
オーツヘイ B	440						
オーツヘイ C		2,040					
オーツヘイ D						2,240	
オーツヘイ E						7,440	
イタリアン			240				
チモシー A	同一ロッド	5,400	2,240	640			
チモシー B							
ルーサンキューブ	10,640						
ルーサンペレットA					3,800		
ルーサンペレットB							37,360

今月の飼養管理ポイント

- 血液検査について -

今回は、脂肪交雑が良好な牛の出荷前の血液検査結果について紹介します。

血清中ビタミンA：欠乏値に近い。これは、ビタミンA制限によるものと考えられます。

血清中ビタミンE・総コレステロール (T-cho)・中性脂肪 (TG)・アルブミン (Alb)・血液中尿素窒素 (BUN)：導入時の値と比較して、上昇。これは、目立った食下量の低下もなく（ルーメン発酵の恒常性を保つに足る粗飼料を摂取している）濃厚飼料を継続的

かつ充分に摂取したためと考えられます。

血清中乳酸脱水素酵素 (LDH)・Glutamic oxaloacetic transaminase (GOT)・

γグルタミルトランスペプチダーゼ (γ GTP)：軽度の上昇。ルーメン発酵や肝臓機能に影響

（障害までには至らない）を与える高濃厚飼料（濃厚飼料割合が高く、繊維以外の炭水化物がルーメン分解性タンパク質や繊維と比較して多い飼料）を継続的かつ充分に摂取したためと考えられます。

血清中マグネシウム (Mg) : 上昇。これは、濃厚飼料の継続的かつ充分な摂取によるものと考えられます。また、牛の細胞の活動が低下し（老化または“枯れる”）、血液中の Mg の細胞への取り込みが減った結果血清中 Mg が上昇した可能性も考えられます。

血清中甲状腺ホルモン・成長ホルモン：低下。飼料中糖成分は甲状腺機能を低下させ、甲状腺ホルモンとビタミン A は成長ホルモンの生成に重要な役割を果たすことから、両ホルモンの低下は、糖成分の多い、ビタミン A の少ない濃厚飼料の継続的かつ充分な摂取によるものと考えられます。また、日光、運動及びストレスにより甲状腺ホルモン（日光、ストレス）または成長ホルモン（運動）の分泌は促進されますので、脂肪交雑の良好な牛が、遮光されかつ、運動が制限されストレスの少ない環境で飼育されているため、結果的に両ホルモンが低下した可能性もあります。

両ホルモンは、筋肉の成長には重要ですが脂肪交雑には好ましくありません。

血清中アミノ酸：上昇。アミノ酸はタンパク質の構成要素であり、甲状腺ホルモンの低下によりタンパク質合成が少なくなり、アミノ酸の利用頻度が落ちたため、結果的に血清中のアミノ酸が増加したと考えられます。

脂肪交雑の良好な牛は、目立った食下量の低下もなく（ラーメン発酵の恒常性を保つに足る粗飼料を摂取している）高易発酵性炭水化物・低ビタミン A 飼料を継続的かつ充分に摂取・利用していると考えられます。

脂肪交雫の良好な牛は、血液検査結果から判断しますと、生理機能または細胞活動が低下した老化の現象に似た特徴を示していると考えられます。このことは現場で良く耳にする“枯れる”という言葉と関連があるのかもしれません。

トピックス

牛肉の家計消費が減少 —8年家計調査速報—

2月18日に総務庁から平成8年の家計調査速報が発表されました。これによりますと、1世帯（全国、全世帯）当たりの支出金額は月平均328,849円で、前年に比べ0.1%の減少となり、また、このうち食料品への支出額は月平均77,042円（前年比1%減）と6年連続で減少しています。

この一方で、外食への支出は増加しており、また、調理食品の購入でも、コロッケや豚かつなど家に持つて帰るおかず類は減少し、弁当などの主食的調理食品が増加するなど、食の外部化が進行している様子がうかがえます。

生鮮肉については、肉類合計で、購入数量が42.3kg（前年比4.3%減）、支出金額が67,127円（前年比3.4%減）と前年を下回りました。特に牛肉は、O-157や狂牛病の影響から、購入数量が前年に比べ11.3%減の10.9kgと落ち込み、ここ6年間続いた消費の増加にストップがかかりました。なお、その他の生鮮肉の購入数量は、豚肉が15.9kg（前年比0.6%減）、鶏肉が12.2kg（前年比0.1%減）とほぼ横ばいでした。

宮崎の味を PR

県農畜産物取引先及び外食関係者との意見交換会開催

県と県経済連の共催による「県農畜産物取引先及び外食関係者との意見交換会」が2月25日に開催されました。これは、東京、大阪等の大消費地や県内の外食・食品流通関係者を招き、県産農畜産物やこれらを用いた加工品を紹介するとともに、意見・情報交換及び現地検討会を開催し、今後の取引の契機とするために開催されたものです。

この中で、宮崎牛も紹介され、その質の高さが認められていました。大阪でレストランを経営する会社は、「当社もレストランで宮崎牛を提供している。食べてみてとてもおいしかったと、精肉を買っていかれるお客様もいる。」と宮崎牛を絶賛。しかし、「せっかくの宮崎牛だが、PRの仕方にもう少し工夫が必要。」とのちょっと辛い意見も出されました。

快挙！ 本県から次々と農林水産大臣賞受賞者

今年に入り、全国規模の表彰行事において、本県の代表者が次々と最高位の農林水産大臣賞を受賞しています。これは、県内関係機関の取り組みや畜産農家の方々の技術レベルの高さを証明しているといえるでしょう。以下、受賞された方々を紹介します。

○全農肉牛枝肉共進会

これまで本誌でも紹介してきたJA綾町のキャトルステーションの取り組みが、全国肉用牛協会主催の第29回全国肉用牛経営発表会（組織活動部門）でみごと農林水産大臣賞を受賞されました。発表会では、JA綾町畜産課の上村義光課長補佐が「有機農業を支えるキャトルステーション」と題してその取り組み内容を発表、同ステーションによる子牛の預託育成の結果、農家の労働軽減や規模拡大が実現されたこと、優良牛の保留や肥育段階での枝肉成績の追求など町、JA、農家が一体となった肉用牛の振興策が評価されました。

○全国肉用牛経営発表会

去る2月3日、大阪中央卸売市場南港市場を会場として第17回全農肉牛枝肉共進会が開催されました。全国29県から和牛107頭、乳牛38頭の計145頭（本県からは和牛5頭）が出品され、このなかで本県国富町の上東正人氏がみごと農林水産大臣賞（最優秀賞1席：グランドチャピオン）を受賞されました。枝肉成績は、等級：A-5、枝肉単価：4,406円、枝肉価格：208万円でした。

なお、本県からはこの他にも国富町の長友三郎氏が優秀賞3席（枝肉成績：A-5）に入賞しております。

○日本農業賞

日本放送協会、全国農業協同組合中央会、都道府県農業協同組合中央会が主催する第26回日本農業賞の中央審査会が1月31日に開催され、個別経営の部で本県代表を温水健一郎氏（小林市：酪農）が、県内初の大賞（農林水産大臣賞）を受賞されました。温水氏は、

搾乳牛50頭を飼養し、1頭当たり搾乳量は9,300kgを超えています。自給飼料として野草（メヒシバ等）を活用することにより、年間を通して

したロールペーパー作業体系を実現、飼料生産コストの半減化、収穫作業の分散化・省力化を図り企業的経営を確立しています。

平成 8 年度九州地域技術研修会開催さる

2月26、27両日、農林水産省家畜改良センター宮崎牧場主催による標記の研修会がJA小林と宮崎牧場を会場として開催された。

この研修会は国の「畜産新技術普及推進事業」に基づいて開催されたもので、九州ブロックの中核的な畜産技術者や生産者を対象に、改良センターで開発・実用化された受精卵移植等の畜産新技術をはじめ、いろいろな最新技術や情報の伝達、技術課題に対する共同的な取り組みや情報交換・研究交流の促進、地域の技術的ニーズに対応した活動を展開することにより、地域の技術格差の解消、技術レベルの高位平準化を図り、実用的な畜産新技術の普及浸透を目的としている。

1日目の研修会はJA小林を会場に、講演と質疑討論が中心で、鶴飼牧場長の開会挨拶に

始まり、権山次長の司会により進行した。

まず、「遺伝子育種の現状と将来」をテーマに家畜改良センター技術部三橋技術第三課長の基調講演があり、個別テーマとして、「ホルモン処理による連続採卵」—宮崎畜試育種部赤塚主任技師、「生体牛からの経腔採卵と体外受精」—改良センター技術部今井技術第一係長、「受精卵移植子牛の人口哺育について」—鹿児島畜試肉用牛部西村研究員の講演の後、活発な総合討論が行われ参加者は160余名に及んだ。

2日目は会場を宮崎牧場に移し、超音波ガイドを用いて生体牛からの「経腔採卵」実習が中核技術者20名により行われた。

○ 肉用牛生産肉能力検定情報 ○

「糸隆安」号 全国トップ級の高い成績

～脂肪交雑 3.2～

種雄牛名	糸 隆 安	生年月日	H 5. 1. 24	登録番号	黒12457	得点	81.0
生産地	北諸県郡三股町	生産者	下 石 義 広	直検成績	DG 1.1 6		
血統	糸 弘 2	第 7 糸 桜	第 14 茂 黒育 280				
		黒 育 29	第 9 いとざくら 黒育 695				
	黒 高 851	第5かずひめ7	晴 美 黒育 19				
		黒 育 4117	第 5 かずひめ 黒高 10854				
系統	た ま	隆 美	美 福 10 黒育 34				
		黒 育 161	な ら 黒高 49245				
	黒 原 438221	も り	安 隆 黒育 163				
		黒 原 248005	み ね 黒原 88583				

間接検定成績 () 内は平成 7 年度全国平均

終了時体重……624.1 (580.7kg) 皮下脂肪厚……2.4 (1.9) cm 脂肪交雑 (BMS) ……3.2 (2.3)
1 日当たり増体量……0.94 (0.88) kg 枝肉重量……381 (344) kg 格付 A-5 (8頭)
推定歩留……73.2 (73.4) % ロース芯面積……50 (46) cm² () 内は頭数 B-3 (1頭)

このほど間接検定を終了した県有種雄牛「糸隆安」号が脂肪交雑で平成 8 年度全国第 2 位の高い成績を収めました。

本牛は平成 5 年に北諸県郡三股町下石義広さんによって生産されました。父は増体と肉質で定評のある「糸弘 2」号、母は名牛「隆美」号の娘牛「たま」号です。

この母牛「たま」号は都城地区の繁殖母牛の中でも育種価がトップクラスであることが知られており、その能力を活用して種雄牛を作出しようと関係者が取り組んでこられました。

間接検定は平成 8 年 2 月から平成 9 年 2 月にわたって実施されました。検定に用いた産子は揃って発育増体とも大変良好でした。

検定の結果、1 日当たり増体量、枝肉重量、ロース芯面積いずれも全国平均を大きく上回り、肉質においても、脂肪交雑 3.2 と全国のトップクラスに位置する高い成績でした。

今後、「糸隆安」号は県下で本格的な供用となり、質量兼備の優秀種雄牛として大きな活躍が期待されます。



○おたずねします○

繁殖・肥育一貫経営の利点と成立条件について教えて下さい。

中央畜産会 インターネットのホームページ上の「畜産経営技術 Q&A」より

(1) 個別一貫経営の利点と成立条件

個別一貫経営の利点は、子牛価格の変動によるリスクや飼い直しによる損失などを回避できること、すなわち、収益の安定化や費用の節約である。また、自家産子牛の肥育・販売の両過程で牛群改良に関する情報を入手できるという利点もある。

しかし、子牛生産部門での徹底したコス

ト削減や、肥育部門での良質肉の安定的生産が可能でないと、個別一貫経営の利点は少ない。

個別一貫経営が成立するために必要な条件は、

- ① 子牛生産部門と肥育部門の技術を確実に習得し、混同せずに実行できること。
- ② 年間を通して粗飼料を安定的に給与すること=粗飼料生産のために土地などを確保すること。

③ 一貫経営開始から肥育牛販売までの間に資金繰りが苦しくなりやすいので、運転資金の確保に配慮しておくこと、などである。

(2) 地域一貫経営の利点と成立条件

地域一貫経営の利点は、子牛価格の変動によるリスクを回避し肥育差益の安定的な確保を目指すことによって、地域内における肉用牛飼養経営全体としての収益の安定化が図れることである。

ただし、このためには、個々の経営は全体としての決定に従うことと、子牛評価や利益分配を地域の実態に即したものにすることが必要である。

地域一貫経営が成立するためには必要な条件は、

① 子牛生産経営と肥育経営との子牛価格をめぐる利害関係を長期的かつ全体的な視点から調整し、これによって得られる利益を両者に公平に分配すること

② 長期的かつ全体的視点への移行に伴う諸負担をある程度の期間は肩代りできる第三者機関が、このような調整分配を担当すること

などである。

回答者：農林水産省 九州農業試験場 研究技術情報科 川上秀和

参考文献：『肉用牛低コスト生産のために指導マニュアル』中央畜産会 p 280～286、1989年



ハネムーンとフルムーン

フルムーンの旅行から帰って来た60を過ぎたオヤジが地区の馬頭観音祭りの宴会でほろ酔い気嫌になって喋り始めた。今度の旅行でうちの娘（カカア）が「アナタは30数年前のハネムーン旅行の時は隆隆とした恐しいほどの逞しい物を持って居て将来が頼もしいワと思わず叫んだけど今は擦り減ってだいぶん小さくおとなしくなったわネ」と言うので俺も娘に言い返してやったよ。「オマエのも、大ぶん太く広く逞しくなったぞ、この状態ならば出

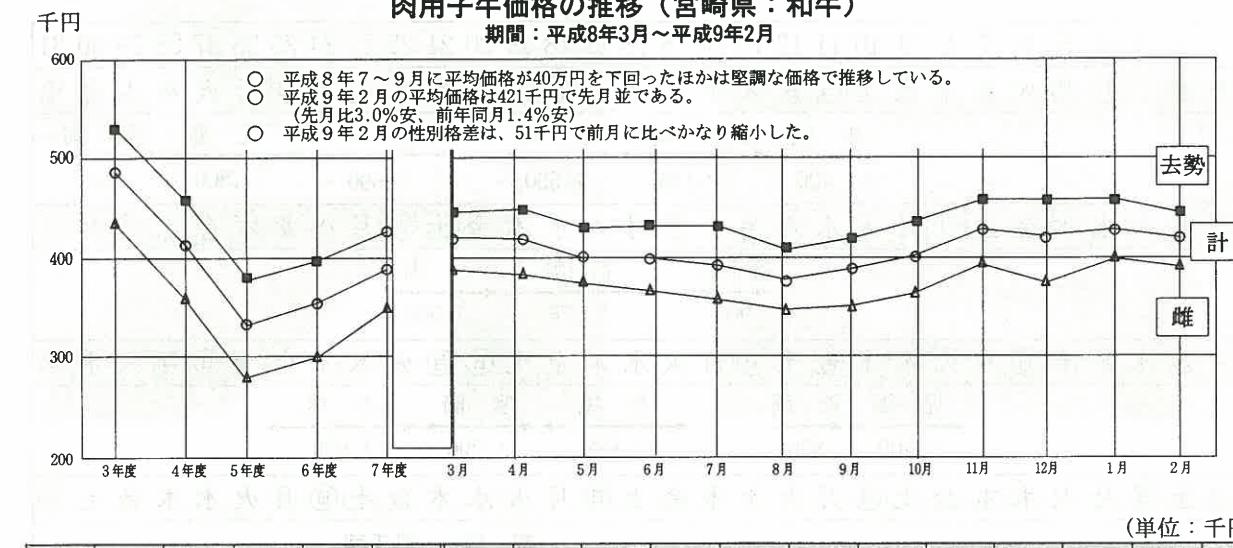
這りの時は隙間風が入るのではないかと心配じゃよ」……とな。それにしてもこのオヤジなんと無責任なことを言う奴じや、隙間風が入るようになるまでも抉（クジ）り続けたのは誰だ。もう一度ゆっくりと扉を開けて戴き奥の方に鎮座しませる御本尊様に「長いこと御世話になっております」と両手を合わせて陳謝しなさい。

（こって牛）

○ 価格情勢 ○

肉用子牛価格の推移（宮崎県：和牛）

期間：平成8年3月～平成9年2月

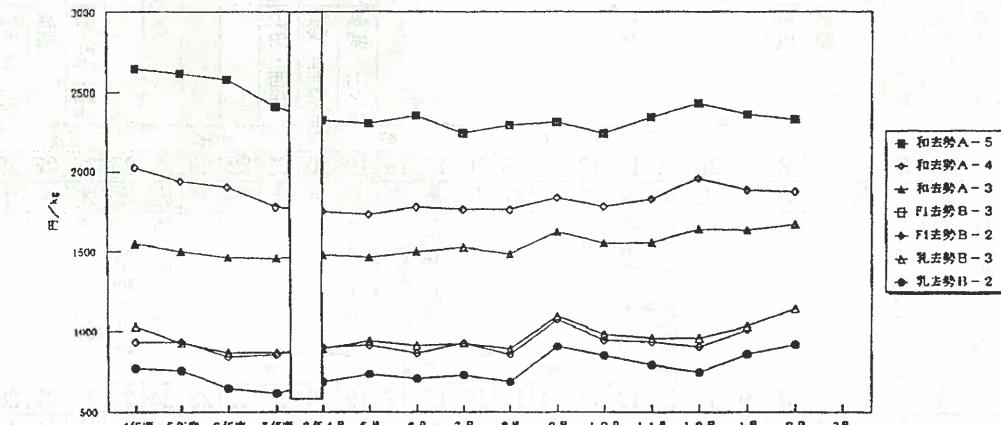


(単位：千円)

	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
雌	436	362	277	299	347	387	383	374	367	361	347	354	364	399	380	403	393
去勢	527	458	377	398	427	446	449	430	434	431	410	422	428	461	461	460	444
計	485	413	330	352	389	419	418	404	401	396	380	391	404	431	423	434	421

注) 価格は、売却、保留合計の消費税込み価格。

品種別規格別牛枝肉卸価格の推移（東京）



品種別規格別牛枝肉卸価格の推移（東京）

	4年度	5年度	6年度	7年度	8年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
和去勢 A - 5	2,643	2,612	2,576	2,407	2,321	2,301	2,350	2,241	2,290	2,310	2,239	2,341	2,428	2,360	2,329
和去勢 A - 4	2,024	1,937	1,899	1,772	1,746	1,729	1,773	1,757	1,758	1,831	1,775	1,821	1,954	1,878	1,868
和去勢 A - 3	1,547	1,498	1,460	1,453	1,475	1,461	1,494	1,522	1,482	1,619	1,547	1,550	1,634	1,628	1,665
F1去勢B - 3	1,234	1,221	1,146	1,196	1,244	1,243	1,251	1,317	1,189	1,358	1,292	1,320	1,349	1,362	
F1去勢B - 2	932	933	839	853	899	912	861	924	852	10171	944	932	902	1,008	
乳去勢 B - 3	1,029	926	867	866	889	941	909	925	889	1,092	980	956	955	1,030	1,140
乳去勢 B - 2	772	756	645	613	684	734	705	728	685	903	847	789	745	856	916

※ 4年度のF1去勢牛は4年10月以降のものである。

※ 乳用牛去勢は4年9月までの交雑種を含む。

※ 平成9年2月は速報値（東京食肉市場日別単価の平均）でF1は示さず。

※ 資料：農水省「食肉流通統計」の年報、月報

※ 消費税込みの価格

今後の行事計画

平成 9 年子牛セリ市開設日程

	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
五 月	木	金	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛			
串間	都城	宮崎		小林	児湯	延岡																											
1,400	2,116	1,500		1,600	1,800	900																											
六 月	④	⑤	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月			
高千穂	都城	小林																															
900	2,176	1,500																															
七 月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土
児湯	延岡		都城	宮崎	小林																												
1,400	800		1,888	1,200	1,600																												
八 月	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	火	水	木	金	土	①	月	
都城	高千穂																																
1,764	850																																

平成 9 年黒毛和種成雌牛登録検査日程

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
五 月	西 須木	西 小林	西 高原	西 野尻	西 諸 県	西 小林	西 都城	西 宮崎	西 高城・山之口	西 姫城・五十市	西 山田・西岳	西 北	西 諸 県	西 高崎	西 梅北・安久・三股	西 高千穂	西 北	西 諸 県	西 高崎	西 都城	西 宮崎	西 小林	西 児湯	西 延岡	西 諸 県	西 長崎	西 諸 県	西 支部審議員会	西 第3回支部審議員会	西 諸 県			
西 小林	西 須木	西 高原	西 野尻	西 諸 県	西 小林	西 都城	西 宮崎	西 高城・山之口	西 姫城・五十市	西 山田・西岳	西 北	西 諸 県	西 高崎	西 梅北・安久・三股	西 高千穂	西 北	西 諸 県	西 高崎	西 都城	西 宮崎	西 小林	西 児湯	西 延岡	西 諸 県	西 長崎	西 諸 県	西 支部審議員会	西 第3回支部審議員会	西 諸 県				
西 小林	西 須木	西 高原	西 野尻	西 諸 県	西 小林	西 都城	西 宮崎	西 高城・山之口	西 姫城・五十市	西 山田・西岳	西 北	西 諸 県	西 高崎	西 梅北・安久・三股	西 高千穂	西 北	西 諸 県	西 高崎	西 都城	西 宮崎	西 小林	西 児湯	西 延岡	西 諸 県	西 長崎	西 諸 県	西 支部審議員会	西 第3回支部審議員会	西 諸 県				
六 月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
七 月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
八 月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
火	水	木	金	土	日	月</																											

畜産農家の皆さんと耕種農家の皆さんとの結びつきを、さらに強めて

☆ 本県の「畜産」をさらに伸ばそう
☆ 「環境にやさしい農業」すすめよう

当協議会は、良い堆きゅう肥の「作り方」・「使い方」・「売り方」をお手伝いしています。



(畜舎)



(袋づめ製品)



(かくはん発酵施設)



(土地利用型作目の栽培)



(堆肥散布)



(施設型作目の栽培)

宮崎県良質堆きゅう肥生産流通促進協議会

〒880 宮崎市旭1丁目3-6

T E L 0985-32-1023

地域協議会・西臼杵支庁 各農林振興局

肉用牛生産技術向上促進事業
社団法人全国肉用牛協会委託

発行所
0985-宮崎
社団法人宮崎
224-宮崎
426-肉用
774-牛協
会4会